



FAS住まい新聞

発行責任者
㈱福地建装
北斗市中野通 324
Tel 0138-73-5558
fax 0138-73-8460

◇ 人生 100 年時代を見据えて ◇

2017年9月より政府による「人生100年時代構想会議」がスタートしました。これにより、2018年6月には「人づくり革命 基本構想」がとりまとめられ、様々な分野で多いに注目されています。

要点としては、幼児教育の無償化対象拡大や大学改革、社会人になってからも大学や高校などの教育機関に戻り学び直しができるリカレント教育や、65歳以上の継続雇用年齢の引上げ環境整備などです。

幼児教育から一生涯にわたるまで、元気で健やかに、安心して暮らす事の出来る社会づくりが整備されていくこととなります。

平均寿命の長い日本ですが、健康寿命は他の先進国より数年も短くなっています。医療の進歩で益々長寿高齢化になりますが、健康で長生きするような中身を加味する必要があります。

これまでの働き方や人生設計は、おそらく劇的に変化するであろうと思われます。この人生設計の拠点であり、生涯の大半を過ごす事になる家づくりにおいては、人生100年時代を見据えた健康住宅の推進が必須だと思われます。

◇ 仕事と住まいの兼用時代が ◇

何処でも仕事の出来る「IT技術」がいつそうと進み、仕事場の会社と住まいの区別が曖昧になりつつあります。

住まいは家族と一緒に単に寛ぐだけでなく、ワークスペースとしての機能も重要になってきました。

会社に属しながら複数の仕事を持ち、子育てをしながら自宅で収益を上げるなど、住まいがワークスペースになっているケースは少なくありません。

最近では、職場のデスクを取り除き、個人が個人の都合に合わせ、自由な場所で、自由に仕事をこなせる企業も多くなってきました。事実、住宅のオフィス化や、逆のオフィスの住宅化という現象が進んでいます。

行き先をインプットすると、自動的に目的地に行ける自動運転車が走り回る新時代が近くなり、人生設計も相当にフレキシブルになると考えられます。

仕事場と住まいの別々だった職住分離が常識であった人生80年時代から、職住兼用の人生100年に合った家づくりが常識になりそうです。

だからこそ、家づくりは、住む人を無機質さのままに時間を経過させないための情緒性などが一層求められると思われます。

◇ 100年過ごせる家 ◇

厚生労働省の平均寿命年次推移によると、H2年～H22年の20年で男性約3.7歳、女性約4.5歳延びて現在20歳の方は、2人に1人の割合で100歳以上まで生きるという事になります。

一方で自立して社会貢献しながら生きる日本人の健康寿命は、男女平均で73歳程度とされています。

寝たきりや介護の伴う生き方は、周りの人より本人自身がかつとも過ごしたくない生き方です。

この健康でいながら、長く住み続けるためには、住宅の性能選びが極めて重要になります。

カラカウに乾燥して寒い冬や、高温多湿の夏の、外気の影響を極力少なくするため、優れた高気密、高断熱の温熱環境は絶対要件となります。

単に高気密・高断熱といっても、断熱材の種類や厚みや施工を適正に行っているかどうかでも性能に大きな違いが生じます。

また家の寿命に大きく関わる調湿機能はどこまで信頼できるのか、更に耐震・耐風・耐久性は勿論、可変性に柔軟な構造体であるかどうかとも問われます。

また、省エネに大きく関わる敷地に対する配置角度や、窓の大きさ、その位置の適正さ、そしてメンテナンスの容易性なども優れた家の特徴です。

このような住宅を選択できる事は、人生100年を安心して健康的に住み続けられる大きな要因となります。是非、「ファースの家」にお住まい下さい。

著 ハウジング事業部 北村真奈美

幸太の知恵袋

色鮮やかなお赤飯を作るには

最近では、炊飯器で簡単にお赤飯を作ることができて嬉しいねえ。お米に、あずきの赤い色をしっかりと付けるにはね、こうするといいよ。下ゆでしたあずきのゆで汁を取って置いて、ほんの少し重曹を加えて、それにお米を一晩ひたしておくんだよ。炊く寸前に水加減を調整して、あずきも加えて、スイッチオン。これで、綺麗な色に炊きあがるんだよ。あずきをゆでるときに、竹の皮と一緒に煮ていけば、重曹を入れるのと同じ効果があるから、改めて重曹を加えることはないよ。

建築情報や知識は、ファース本部公式サイトで!



ファースの家

検索

